

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名塩本 明弘

学科名・専攻名生物生産学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・専門学習のために：特論科目の開講、 ・研究の立案、実施、考察、文献検索など修士論文を完成させるために：特別総合実験・演習科目を開講。 ・プレゼン能力や文章記述能力を強化する科目を開設している。	・モチベーションの向上：研究成果ポスター発表会と表彰。 ・対話による刺激：演習的授業を工夫。 ・新しい知識の刺激：外部講師を招聘する（本年度3回実施）。 ・外部からの刺激：学会発表参加を促し学外交流を奨励した。	・科目ごとに授業記録を取る。 ・シラバスとガイダンスにおいて評価基準を明示する。	・ポスター発表により指導教員以外の専攻の複数指導教員が修士論文の進捗度を把握する。 ・専攻内の論文発表会、研究科全体での修士論文要旨のチェック、修士論文発表会、指導教員および他の指導教員による修士論文の査読	・授業評価アンケートの実施 ・授業改善計画の作成と提出 ・毎年度のシラバス作製時の科目内容の改善 ・修了時アンケートの実施と集計 ・研究科におけるFD委員会において研究科共通科目の見直し（科目の統合）を行った。学則改訂済。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の専門知識をベースに、修士課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 ・知識を吸収する意欲を持続させ、地方にしながら世界に通用するレベルと意識をもたせる。	【長所】 ・教員による一方的な評価に陥らない。 ・学生にとっては努力に見合った評価。	【長所】 ・指導教員によるきめ細かい指導。 ・専攻内の他の指導教員による状況把握	【長所】 ・学生の授業評価は高い。 ・各授業担当者の工夫
	【特色】 ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、バイオテクノロジー、動植物生産、生態系保全を高度に学ぶことができる。	【特色】 ・少人数きめ細かい指導	【特色】 ・特になし	【特色】 ・修士論文英語要旨を1つの論文につき5人の指導教員が査読し、コメントを記録。本人にフィードバックしている。	【特色】 ・高い満足度 ・高い授業出席率
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 外部講師の依頼は個々の教員に委ねられており、毎年の講師数は変動する。今年度は3名を呼ぶことになったため講師への謝金が不足した。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・きめ細かい指導は、教員の負担も増加する。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学生の学習志向を尊重しながらも多様な分野を指導し、満足度を得ること。	【課題】 ・専攻において講師に支払う謝金の予算化すべき。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・教員の負担軽減（業務集中	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	・定められた試験制度の適切な立案と実施 ・試験日程は事前に専攻主任会議、研究科委員会に付議され承認された後に公示する。 ・受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。 ・指導教授と大学院授業担当者による学科試験問題（外国語・専門科目）の作成。指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。 ・研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている。 ・入学試験問題は公開する	・内部（本学部）学生については受け入れ指導教授における進学の意味確認と適性の判断。 ・外部（他大学または留学生）学生については受け入れ指導教授における事前説明と適性の判断。専攻主任による確認。 ・本年度においては全て内部学生の進学であった。 ・指導教授全員による口述試験における学生の進学の適性判断。 ・指導教授全員による修士論文の回覧と審査により、学生の到達度レベルの判定と受け入れに対するフィードバック。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。 ・外国語に関しては複数人により問題の難易度を判定している。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。 ・外国語試験に関しては、適切なレベルを維持した出題である。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし
根拠資料名	研究科委員会会議資料	卒業時アンケート結果（研究科委員会会議資料） 修士論文 研究科委員会会議資料

